

## 『「健康しが」ツーリズムビジョン2022』見直しの方向性について

### 1 ビジョンについて

計画期間：2019年度から2022年度（令和元年度～令和4年度）

基本方針：「観光を架け橋に、つなぐ滋賀、つづく滋賀」

基本目標：「交流人口を拡大するとともに、観光消費の増加につなげる」

成果指標：

項目	目標値
延べ観光入込客数	6,000万人
延べ宿泊客数	450万人
観光消費額	2,000億円

改定：ビジョンの1年前倒改定について、令和2年12月21日開催の滋賀県観光事業審議会に諮問

### 2 観光の現状等について（※滋賀県観光入込客統計調査、令和2年は速報値）

#### (1) 観光入込客数等の推移

(万人・億円)

項目	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	R2 - R元
延観光入込客数	5,077	5,248	5,254	5,404	3,643	△1,761(△32.6%)
延宿泊者数	378	387	399	408	242	△166(△40.8%)
観光消費額	1,735	1,793	1,972	2,035	1,328	△707(△34.7%)

#### (2) 外国人観光入込客数等の推移

(万人)

項目	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	R2 - R元
外国人延観光入込客数	55	54	60	67	12	△55(△81.9%)
外国人延宿泊者数	40	34	35	34	4	△30(△87.2%)

#### (3) 新型コロナ感染拡大の県内観光関連事業者への主な影響について（滋賀県観光振興局実施アンケート調査）

【結果概要】（※詳細は別添の調査結果概要（速報）のとおり）

- 回答者の9割以上が「コロナ禍により事業活動にマイナスの影響があった」と回答し、内容は「売上の減少(92.5%)」が最も多く、「衛生用品の準備(72.6%)」、「イベントなどの延期・中止(58.1%)」等が続いている。
- 2020年の売上について、対前年比で10%未満に減少と回答した事業者が5%、10～30%に減少と回答した事業者が25%、30～50%に減少と回答した事業者が23%で、半数以上が大幅な売上の減少となっている。また、コロナ前の売上水準に回復する期間として、約5割の事業者が1～2年程度かかると考えている。
- 今後の支援策について、5割以上の事業者が「税金面の猶予、軽減、優遇制度」、「雇用を維持するための支援制度」を必要とし、4割以上の事業者が「GOTOキャンペーンの延長」「県が実施する観光キャンペーン等の充実」といったキャンペーンに関する支援策を必要としている。
- 新型コロナの影響による観光客の動向の変化について、「個人旅行の増加(53.5%)」、「マイカーなど個別の移動手段の増加(38.1%)」、「近場や地元旅行の増加(32.8%)」との回答が多い。
- 今後の観光のあり方について、すでに2割以上の事業者がニューツーリズム(体験・交流型の観光)について「企画・運営している(10%)」、「活動に関係・参加(13%)」と取組を始めており、「今後、活動に関係・参加してみたい(51%)」を合わせると7割以上となっている。

### 3 ビジョン改定の方向性等について

#### (1) 観光を取り巻く状況等の変化

- ・近年、本県の観光入込客数は順調に増加してきたが、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない令和2年の観光入込客数は対前年比で大幅に減少する見込みであり、県内観光関連産業は非常に厳しい状況となっている。
- ・新型コロナ感染拡大の影響の長期化により、当面は特定の時期、場所に集中しがちな従来型の観光スタイルに戻ることは難しく、より安全安心を求めるスタイルに変化していく可能性が高い。
- ・国（観光庁）においては、令和2年12月3日に「感染拡大防止と観光需要回復のための政策プラン」を決定し、感染拡大防止策の徹底を大前提に、当面の観光需要の回復を担う日本人国内旅行の需要を強力に喚起しつつ、本格的なインバウンド回復に備えて国内外の観光客を惹きつけるコンテンツ造成等の取組を進めることとされた。

#### 【コロナ禍を経験した観光のキーワード（例）】

- 「安全安心」な観光 : 「感染拡大防止」、「人が密集していない」、「公衆衛生の徹底」、「移動距離が短い」、「個人旅行」、「分散化」、「自然を活用したコンテンツ」等
- 「質」の向上 : 「長期化」、「体験・交流型」、「観光資源の高付加価値」、「上質な滞在環境」等

#### (2) ビジョン改定の方向性

##### ①ビジョンの「再検証」

・コロナ禍を経験し、変化する観光客のニーズやコロナ収束後を見越した観光振興のあり方について、迅速かつ柔軟に検討することが必要となっていることから、ビジョンにおける滋賀県観光の「現状」、「強み」、「弱み」を踏まえ、これまで以上に強みになる点や課題となる点等を「再検証」し、観光関連事業者、行政、地域住民等が一丸となって観光振興に取り組んでいく際の羅針盤となる、新たな観光に関するビジョンを再構築していくことが必要である。

・また、コロナ禍を受けた観光客の周遊の変化等に対応するため、観光客の動態データに基づいた周遊ルートや来訪者の分析等を行って、関係者間で共有（見える化）し、データを活用した戦略的かつ効果的な受入環境整備や周遊観光ルートの検討等を行い、改定に活かしていく。

##### ②観光資源の「再発見・再評価」

・コロナ禍を経て、これまでのように旅行者がたくさん来て、単に消費するだけという従来の観光スタイルは変化し、より安全安心な観光が求められるとともに、観光へのニーズは多様化していくことが考えられる。

・本県の豊かな自然で楽しむアクティビティやアウトドア、滋賀の食、文化、地域住民との交流などを通じ、滋賀の豊かな自然や季節感を一時的な県民として体験していただくことで、滋賀への共感の輪を広げ、長く滞在し、何度も来ていただけるよう、「量」を求める観光から、より「質」を高める観光への転換が必要である。

・現在の状況を、地域の観光資源を「再発見・再評価」する機会として捉えて、今後の国内観光・インバウンドの本格的な回復を見据えながら、観光事業者や観光地域づくり法人、地場産業、交通事業などの多様な関係者が連携し、各地域に眠る観光資源の磨き上げや新たな観光の創出を通じて、滋賀県全体でより一層魅力と収益力を高め、観光需要の回復、地域経済の活性化につなげていくことが重要となる。

#### 【改定のポイント】

⇒ 多様な関係者が連携し、地域の観光資源の「再発見・再評価」を行い  
体験・交流型の『しがのニューツーリズム』の展開を図る

### 4 今後の予定

令和3年3月～6月頃 観光事業審議会でビジョンの検討

令和3年8月頃 県民政策コメント

※適宜、検討状況等を常任委員会に報告

令和3年11月頃 観光事業審議会から知事へ答申

令和4年1月頃 新ビジョン策定